

嘉永七年 相州警備道中日記

永代家老益田氏家臣俣賀又助道中日記并小遣諸控



目次

目次	1
解説	1
益田家家臣俣賀又助の相州警備行程図	3
凡例	4
道中日記并小遣諸控	5

解説

「道中日記并小遣諸控」について

嘉永六年（一八五三）六月のペリーの浦賀来航をきっかけに、幕府は江戸湾警備の強化を目ざし、十一月、萩藩に相模湾警備（相州警備）を命じた。これにより萩藩は、安政五年（一八五八）までの間、三浦半島の三浦郡・鎌倉郡を私領同様預所として支配することになる（岸本寛論文）。

この相州警備に参加するため、萩藩永代家老益田家家中の一隊が、安政元年（嘉永七年、一八五四）一月、本拠須佐を發し相州に向かった。「道中日記并小遣諸控」（毛利家文庫「股賀又助御奏者番致事記録」（71藩臣日記60））は、益田家家臣俣賀又助が、この一隊に参加した際の道中日記、およびその時の小遣帳（金銭出納簿）である。

俣賀家は、家中では上級家臣（上士）の家柄であった。

この文書によれば、益田家中の一隊は、安政元年一月六日に須佐を發ち、萩に立ち寄ったのち、萩往還を南下し、九日、富海から海路東へと向かった。十五日、兵庫に上陸した後は陸路をとり、東海道を進んで二月二日に江戸藩邸に着いた。二十四日まで江戸に滞在し、ようやく二十六日に本陣となった伊豆半島の上宮田に到着した。同地には八月七日まで滞陣した。

八月七日、一隊は上宮田を發ち須佐への歸路につく。東海道を西に返し、二十二日大坂からは海路を進んだ。途中、讃岐国金毘羅宮に立ち寄り（二十四、二十五日）、二十六日三田尻に上陸し、同日は山口泊。二十七日に萩に着き、二十九日に同地を發つたのち、晦日には須佐に帰り着いたとみられる（以上、詳細は後掲「益田家家臣俣賀又助の相州警備行程図」参照）。

「道中日記并小遣諸控」は、具体的には、安政元年一月六日～二月二十八日、五月十日、同十四日、六月十七日の日記（二月二十八日～五月九日の記述は欠く）、復路の八月七日～晦日の日記、往路・復路の諸道具改め、道中での小遣帳などで構成されている。

相州滞陣中の五月十日、六月十七日には、米国軍艦を目撃したことが記されている。その一方で、道中あるいは江戸において、名所旧跡、神社仏閣などを数多く訪れ、土産物などの購入も多かったことがわかる。幕末期、対外防備のための軍隊といっても、まだのんびりした雰囲気を感じられる。

なお、著名な吉田松陰の下田事件は、安政元年三月に発生しているが、残念ながらここには何の記述もない。

〈参考文献〉

岸本寛「江戸湾警衛諸藩と村落祭祀―相模国三浦郡秋谷村寺社間
争論を素材として―」（『歴史学研究』712 一九九八年）

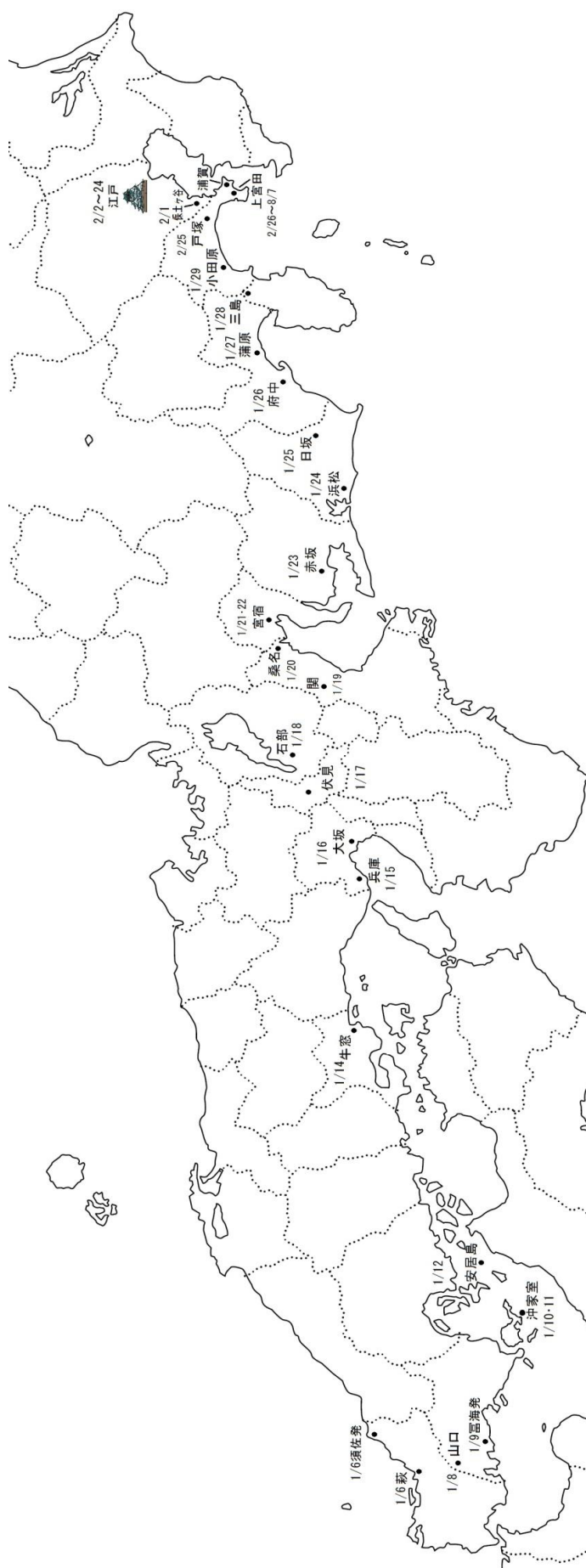
実践講座での解説について

「道中日記并小遣諸控」は、「幕末期の記録を読む 永代家老益田氏家臣俣賀又助の日記 ―嘉永七年『道中日記并小遣諸控』―」と題して、平成26年度山口県文書館古文書実践講座三班のテキストとし、これをすべて解説した。

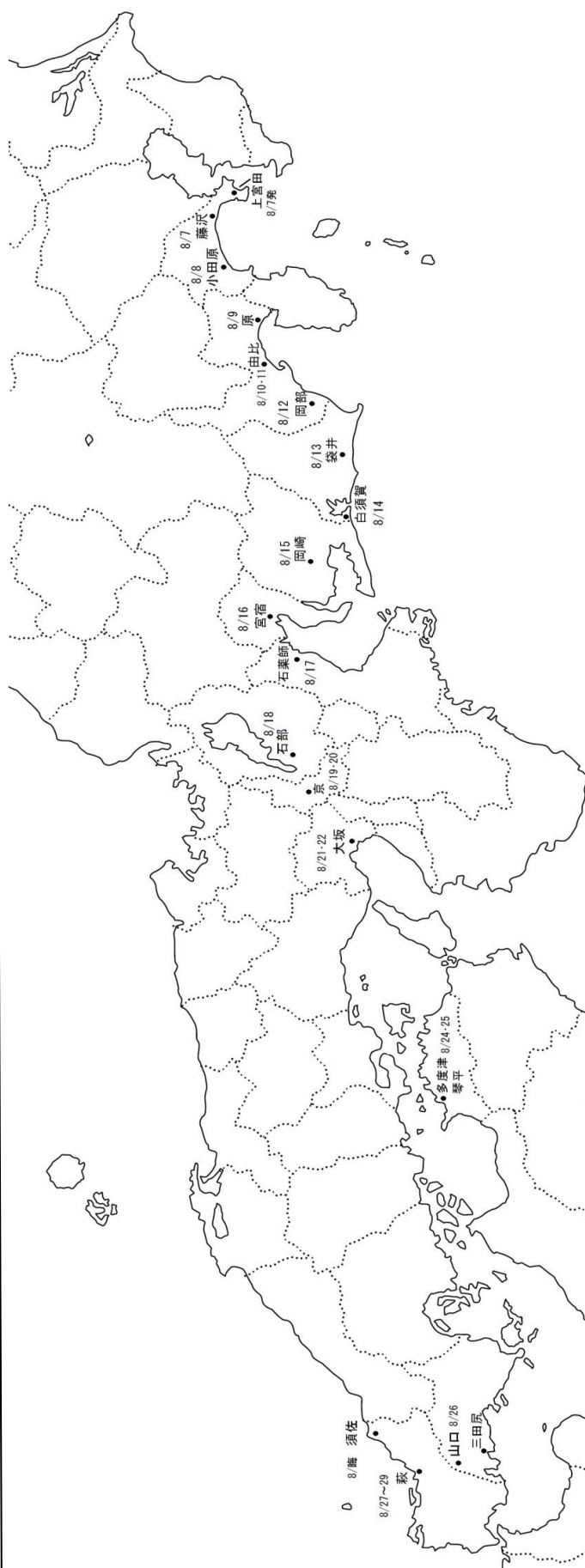
担当した三班のメンバーは以下のとおり。

石田 孝・金子與道・齋藤美穂子・武清秀夫・中村睦美・
山中トシ子・山本公吉

〈サポート〉山崎一郎・和田秀作・吉積久年（山口県文書館）



嘉永7年1月6日～8月7日(往路・滞陣期間)



8月7日～8月晦日(復路)

凡例

一、当史料は、平成26年度山口県文書館古文書実践講座の受講生が解読したものである。

一、漢字は、原則として常用漢字を使用した。

一、変体仮名及び慣用的合字は、「江」(え)、「而」(て)、「者」

(は)を除いて、原則として平仮名に改めた。

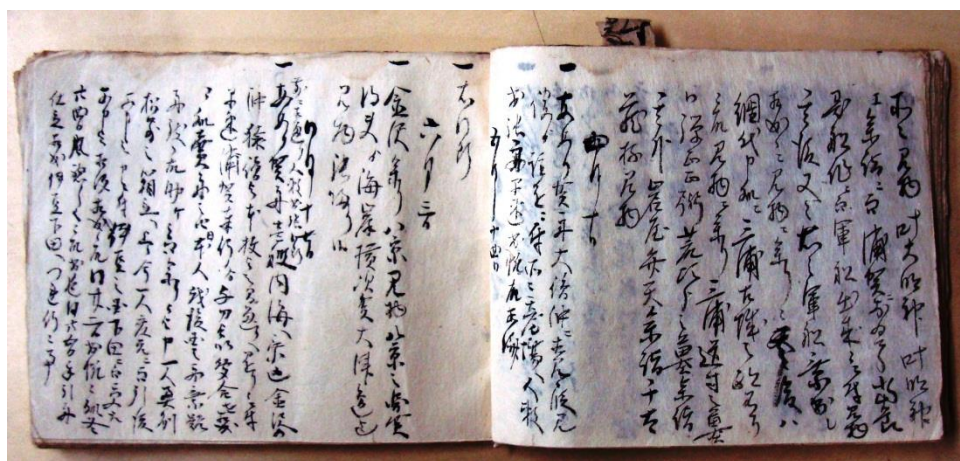
一、適宜、読点および並列点を付した。

一、抹消部分は、原則として訂正部分をそのまま本文とした。

一、改行や割注は原則として原本のままとしたが、意味をとりやすくするため、改めた場合もある。

一、説明として加えた傍注は()で示した。

一、本文右上に小活字()書きで付した数字は、講座で用いたテキストの頁数を示している。頁の区切りには破線を入れた。



表紙(右)と本文の記述(左)

道中日記并小遣諸控

(表紙)

嘉永七甲寅ノ正月七日出立ニ而
萩より江戸滞留申相州(送カ)
上宮田迄并相州より萩□

道中日記并小遣諸控

嘉永七寅ノ八月廿七日帰国

俣賀又助致事

②

大小わきし(送脱カ)

そのわけ

きけば

大わ夫て

小わつま

どこへゆくにも

二人づれ

人のめぬきに

かけられて

ぬいたりさしたり

するゆへにこんな小つかゞ

できました

③

諸道具改め
(往路)

一 甲冑并 立物二つ
諸道具相添

一 上帯 一 木綿うこん

一 くりしめ緒 一 木綿打

一 はち巻 一 白木綿

一 小袴 一 布

一 陳羽織 一 (陣、以下同じ)

一 太刀付 一 木綿丸打緒

一 火事笠 一 武助荷江入組

一 腰兵糧袋(糧) 一

一 吸筒 一

一 鍬 一口 たくだ一

④

一 足袋 二口 こん

一 草鞋 二口 つぎ

一 夜着 一 島

一 大風呂敷 一 うこん木綿定紋

一 布同 二 大小こん

一 絹帯 一 花色

一 島裕 壺

一 単物 二口 島

一 同 一 小紋形

一 同 一 十之文形

一 扇子 二

⑤

一 半紙 一束

一 手紙 一帖

一黒保 一束
 一綿入袷 一 つむぎ
 一袷羽織 一 島
 一帷子 一 きひら
 一馬乗袴 一
 一白足袋 一
 右之通り先荷甲冑入組
 之内ニ有之候控

⑥

一紋付袷 一口 織色
 一同羽織 一 茶色
 一同 （マ、半被カ、以下同じ） 一 島
 一絹半腹 一 形付
 一小倉袴 一
 一布夏袴 （股引） 一 形付
 一もゝ引 （種） 二
 一ふとし 二
 一半腹 二 形付
 一羽織 二 ぶつちぎ
 ⑦

一帯 一 小倉
 一三尺帯 一 布
 一（襦袢）地はん 三
 一袖なし 二

一懷中 一口 上袋共
 一かつさい袋 一
 一笠 一 すげ
 一蓑 一
 一小まくら 一
 一早道 一
 一印ろう 一

⑧

一石筆 一
 一大小 一 腰
 一脇差 二 内
 一小柄 二
 一引はだ 一 大小分
 一たばこ 一 袋
 一絹ふとし 一
 一鐙
 一さめ （二きれ 但、あい）
 一柄糸 一 花色
 一綿入半腹 一 島

⑨

一たふ地はん 一 白布
 一へり地 三 懸 ひんろうじ
 一稽古着 一
 一まへだれ 一 ほ木綿

一馬乗袴つき 二
一糸針

嘉永七年
二月六日
須佐禰
萩着

(10)
嘉永七寅ノ正月六日
宿出立ニ而萩着、相州へ御出張
御供仕候ニ付、萩より江戸相州迄日記

一月八日

同八日

萩出立
明木

一正六ツ時萩出立ニ而明木江白四ツ時着

佐々並

御茶屋ニ而小休、早刻出立、九ツ時半佐々並

山口

御本陳木村作兵衛方ニ而昼飯、早刻

出立、白七ツ時半山口着、夫レよりるり光寺・
(瑠璃光寺)

定栄寺・祇園社・大神宮江参詣、宿
(常栄寺)

同所だてこをじあやぎや新次方江暮
(堅小路)

六ツ時着

一月九日

同九日

富市

一今曉七ツ時山口出立ニ而富市江着、夫より

天満宮江参詣、本町昼飯、宿エ白四ツ時

着、中飯したゝめ、少し休足、九ツ時出立、

富海

富海本陳板村佳之進方江八ツ時着ニ而

(11)

少し休足、夕飯したゝめ、暮六ツ時

乗船

乗舟、夜八ツ時出帆、

一月十日

同十日

室津・上関

一白九ツ時室津上之関之間少し懸り

大島沖家室

昼飯食し、同所出帆、夜五ツ時

大島沖ノ家室江着、夫より陸江上り

友沢彦七と申す方ニ而休足、金子^{わし}

札七拾四匁ニして式歩兩替、又々舟江

帰り休足之事

酒菓子杯食し

一月十一日

同十一日

一同所滞船、又々上り芝居見物、

其外所々見物

一月十二日

同十二日

一同所滞船、舟中ニ而菓子食し、

白八ツ時出帆ニ而暮六ツ時半

(12)

伊予国安島

伊予国之内相島江着、同夜

八ツ時出帆

一月十三日

同十三日

一夜六ツ時半備前之内塩通し之瀬

京の上臈島

(京の上臈島)
京之女郎と申島江懸り少し休足、

同四ツ時出帆、備前牛窓之沖

べつたらと申沖相へ懸り居、夫レより

又々帆上

一月十四日

同十四日

生恋

(生恋)
一朝五ツ時備前牛まどへ着船、夫

保命酒

(保命酒)
より陸江上、風呂へ入、保命酒吞、菓子杯食、

一月十五日

播磨灘

又々乗舟夜四ツ半時出帆、
同十五日

一今暁前より、(播磨灘)はりまなだへはしり

懸り候処、模様悪しく相成則大風

(13)

大波ニ而事之外之難義、一命も

難計、比ハ五ツ時也、前日之夕飯切ニ

未夕飯も不食、小便も前夜五ツ時ニ

致候以後ハ不致、最早小便ニも事之外

難義、入江氏共小便つかへ、徳りへ小便被致候

様之事ニ而、漸々四ツ半時兵庫ニ

着安心仕、少し休足ニ而夫より陸江

上所々見物、湊川楠之墓・尊

像・清盛之墓見物、茶屋立寄

酒杯吞舟へ帰り、其日滞船、

夜七ツ時出帆

一月十六日

大坂

同十六日
(安治川)
一白四ツ時大坂あじ川御屋敷

之前着、夫より早速陸江上り、

新町・四ツ橋・とをとん堀・天王寺

(14)

之堂・石山御城・かしまや・三ツ井・

(湯池カ)こを之地・天満之天神・とをとん

堀之芝居見物ニ而暮六ツ時帰舟

又々夜中新町之夜店見物
ニ参り、四ツ時帰船

一月十七日

同十七日
一今暁六ツ時大坂出立ニ而山城

之国八幡所八幡宮江参詣、刀之

目釘竹を受、淀之城・水車見物、

暮六ツ時伏見御本陳錢屋善兵衛

方江着

一月十八日

同十八日

一今五ツ時伏見出立、をうかめ谷、

第五之山、大坂之関を越へ、大津着、(膳所)ぜいの城、

勢田之小橋大橋打渡り、石山寺・平の

(比叡)暮雪・ひ栄山・野ハセ之帰はん・

唐崎一松・堅田むかで山抔

遠見、草津ヲ通り石部へ、夜

五ツ時本陳着

一月十九日

同十九日

一今暁七ツ時石部出立ニ而水口、土山

二而昼飯、九ツ時出立、澄鹿之関ヲ越

へ古法けん筆捨山見物、関之地蔵へ

参詣、関之本陳へ白七ツ半時着

一月二十日

同廿日

龜山
一今曉七ツ時関出立ニ而龜山
城下、庄野、石薬師之薬師
追分、追分、四日市、桑名宿江
桑名

白七ツ半時着

但、四日市より桑名之間ニ富田と申

(16)

富田漬物
桑名の蕎麦・
焼き蛤・白魚
所有、此処富田漬物名物、桑名之
蕎麦
そは・やき浜くり・白魚名物有

一月十二日

同廿一日

七里の渡し

一今四ツ時桑名より七里之渡江乗り、

宮宿熱田

八ツ時宮江着、宿鈴木や方江着ニ而

名士屋城下

夫よりなこや御城・城下所々見物、

熱田神宮

あつ田大明神江参詣御守を受、

熱田

暮六ツ時帰宿

一月十三日

同廿二日

一同所滞留ニ休足

但、松惣・小原勘・益勘・大添、
さやまはり

之处、風悪しく候故、其日着無之ニ付

滞留之事

一月十三日

同廿三日

鳴海
一今六ツ時宮駅出立ニ而鳴海

(17)

池鯉鮒

鯉鮒、権現参詣御守を受、岡崎

岡崎
富士川、赤坂江暮六ツ時本陳着

一月十四日

同廿四日

(益田親施)

一赤坂ニ而旦那様御備一同ニ

御油

相成、正六ツ時赤坂出立、御油、

吉田

吉田、二タ川、白須賀、荒井昼、

白須賀

(新居の関所)

荒之関所渡し江乗、舞坂江暮六ツ

舞坂

時着、夫より浜松江夜四ツ半時

着候所、宿つどいニ付寺借受

相成、皆々着候所至而大差間ニ付

其夜夜具も無之通夜同様、

飯も夜曉前ニ二飯食し、直様夜

七ツ時浜松出立

(18)

一月十五日

同廿五日

天竜川

一今曉七ツ時浜松出立ニ而天龍川

見付

渡り、見付之駅、袋井駅、昼掛川、

日坂

日坂江暮六ツ時宿江着

一月十六日

同廿六日

佐夜の中山

一日坂より曉七ツ時出立ニ而さや

夜泣き石

の中山、夜なき石、中山寺見物、

中山寺

金谷

大井川

金谷駅ヲ越へ、大井川を渡り、

島田・藤枝・

島田、藤枝、岡部、此間宇津山

宇津ノ谷峠

峠を越、爰之十一面観音御夢相之

国子 十だんごを買得、此段(国子)大病
 之節いたゞき候へハ治と申御夢相之
 だんご也、夫レよりまりこ着、安部(丸子)
 渡り、安部川名物餅を食し、府(安部川)
 安部川名物餅
 府中 中江暮六ツ時着、宿浜松や
 八右衛門方也
 一月二十七日 同廿七日
 一今白五ツ時府中出立二而江尻、
(興津)沖津、此間おきつ川かち渡り、見尾(三保)
 之茶や二而酒屋杯食し、清源寺(清見寺)
 上り、松原風景見物、去田埵懸り、
(薩埵)茶や二而去田のふじ見物、名物
(由比)やきあわび、油以駅、かん原江七ツ
(蒲原)半時着二而止宿
 一月二十八日 同廿八日
 一今曉六ツ時神原出立二而ふじ
 川を舟渡り、吉原駅、原駅
(沼津)ぬまず駅、見島江七ツ時着
(三島)夫より明神江参詣御守受、夜
(三島大社)五ツ時止宿
 一月二十九日 同廿九日
 一今曉七ツ半時見島出立二而

箱根 箱根江懸り、水海富士見物、箱根
 芦ノ湖 権現参詣、畑二而細工物見物、
 箱根権現 七ツ半時小田原宿着
 畑 小田原
 二月一日 二月朔日
 一今曉七ツ時小田原出立二而酒
 酒匂川 匂村二而酒匂川渡り舟也、
 大磯駅、平塚、馬入川舟渡也、
 平塚 藤沢、戸塚、程ヶ谷江暮六ツ時
 馬入川 保土ヶ谷
 藤沢 戸塚
 保土ヶ谷 止宿
 二月二日 同二日
 一今曉七ツ時程ヶ谷出立二而
(神奈川)金奈川駅、川崎駅、此間六合(六郷)
 川を渡り舟也、品川御昼二而
 桜田御本屋敷江白七ツ時着、
 桜田御本屋敷 江暮六ツ
 夫より麻布御屋敷 江暮六ツ
 時着、休足
 二月三日 同三日
 一麻布御屋敷内見物仕
 麻布藩邸 滞留之事
 江戶見物 一滞留中江戶見物として、追々
(御三卿)罷出、先御城・大下馬・御三家・
(霞ヶ関)御三京・かすみが関・芝増上寺・

神明あたこ・日陰町・上野
(愛宕山)
東栄山・浅草観音・両国橋・隅田川桜
(東叡山)
梅若墓・上野桜・しのばづのゆ
(不忍池)
け弁天・王子稻荷権現・岩や
(瀧澤山)
弁天・飛鳥山・道かん山・日暮之里風景
(根津)
ね津権現・天王寺・駒こみ吉じよ院
(駒込吉住)
東都橋・押上明見宮・亀戸天神
(米總堂)
梅屋敷・五百羅かん・篠々以堂
(砂村)
すな村御屋敷・大知稻荷・すさき
(洲崎)
弁天・三十三間堂・探川八幡宮
(ママ・深川カ)
永代橋・西本願寺・東本願寺
(三)
芝泉岳寺義士之墓・大仏・魚
(ママ・藍カ)
晩之観音・さる若芝居・新
(猿坐)
吉原・うへ中之町桜・其外
段々名所・神田明神・湯島天神
(護国寺)
音羽(国寺・目白ふじを・目赤
(不動)
ふじを杯見物参詣 賑々敷事
有之候へ共書不盡之事
二月二十四日
同廿四日迄滞留
二月二十五日
同廿五日
一今曉七ツ時江戸麻布出立
品川・川崎
二而品川駅御休、川崎駅

神奈川
保土ヶ谷
戸塚
御昼、金奈川駅、程ヶ谷駅、
(戸塚)
土塚宿江夜五ツ時着
(三)
二月二十六日
同廿六日
一今曉七ツ時土塚出立二而道中
(戸塚)
円岳寺弁慶之大鏡見物、鎗倉
(鎌倉)
御小休二付鶴岡八幡宮エ参詣
御守受、夫より源頼朝公御廟、大江
(島津忠久墓)
広元公・島津兵庫守御廟エ参
詣、夫より羽山二而御昼、相州上宮田
エ白七ツ半時着
二月二十七日
同廿七日より
(三崎)
一先上宮田近辺見崎、城ヶ島
燈明台有之御台場、御陳屋、原御陳や、千太
崎御台場、大筒十炮仕懸上二
燈明台有之、栗浜エ昨年異
(久里浜)
船上陸場、鶴崎、千代崎
御台場見物二而浦賀エ参り
(三)
所々見物、叶大明神・叶明神
エ参詣二而、浦賀二おゐて当節
異船作二而、軍船出来候二付見物、
其後又々右之軍船乗出し
相成候二見物二参り候、其後ハ

三浦古城跡
網代申処ニ、三浦古城之跡有り
三浦氏墓
候故見物ニ参り、三浦道寸之墓・
(義同)

同弾正正弼荒次郎之墓参詣
(少)
其外岩屋弁天参詣、千太
蔵杯見物

五月十日
アメリカ船
一あめりか舟大島沖ニ相見候段、見
(三島)

島より註進ニ付、所々台場へ人数
出張、舟早速出帆故相済

五月十四日
五月十四日

(26)
一右同断

六月三日
六月三日

金沢八景
一金沢参り八景見物、八景之図買

横須賀
得、夫より海岸横須賀・大津辺迄

見物、罷歸り候

六月十七日
同月十七日

前ニ相通り人数出張同断

アメリカ船
一あめりか舟老艘内海へ乗込、金沢の

沖猿島と本牧と之間通りへ懸り候ニ付、

浦賀奉行
早速浦賀奉行より与力を以聞合せ相成

候処、売舟の由、日本人越後国之舟乗難

舟致候故、助ヶ候而参り候と申、一人奥州

松前之箱立へ上候、今一人爰元ニ而引渡
(館)
可申候と申ニ付、伊豆之国下田ニ而受取
可申候と相拶相成候故、同廿二日出帆候処、又々
廿四日風悪しく候故出返、同廿五日手引舟
仕立相成、伊豆下田へつれ行候事

諸道具改め
(復路)

(27)
一甲冑并諸道具
一甲 一 梨打形

一立物 二 三日月定紋

一半頬 一

一胴 一 七枚草摺

一置袖 二

一小手 二 くさり

一板佩立 一

一上帯 一 木綿うこん染め

一繰へ緒 一 木綿真田打

(28)

一鉢巻 一 白木綿

一小袴 一 布地稲妻形

一陳羽織 一 目羅紗定紋水玉

一太刀付 一 木綿丸打緒

一腰兵糧入^(糧) 一 袋相添

一吸筒 一

一陳笠 一

一鍮 一 印之たくだニツ相添

一継草鞋 二

一足袋 一

一大風呂敷 一 木綿うこん定紋

一布風呂敷 一 こん染大小

一伊方布上下 一 此度江戸求

但、卷有之小紋形

一太刀懸袴 一 同断

但、うつら織きはん付

一小倉袴 一

一夏袴布 一 千筋形

一馬乗袴 一 立島

一織色紋付袴 一

一茶色紋付袴羽織 一

一袴羽織 一 袴

一つむぎ羽織黒 一 ぶつさき袴

(30)

一島羽織袴 一

一島袴 三 上中下

一つむぎ綿入袴 一 もへぎ色

一絹綿入半腹袴 一 形付

一綿入島半腹 一

一綿入袖無し 二

一形付半腹袴 二 上下

一絹帯 一 花色染

一地ばん 三 袖形付上中下

一絹ふとし 一

一もゝ引 三 上中下

(31)

但、上之分此度江戸ニ而求

一紋付帷子 一 ぎひら

一同 一 朝黄染^(浅葱)

一單物 二 島上下

一同 二 上下形小文十之字形

一布たふ地はん 一 白

一小倉帯 一 ふたんの分

一懷中 一 上袋共三

一懷中之上袋網 一 緒共三

一かつ才袋 一 同

一稽古着 一 古き分

一へりぢ 三 ひんろうじ

(32)

一馬乗袴之継 二

一まえだれ 一 ほ木綿

一糸針入 一

一布三尺帯 一 古ギ分

一夜着 一 島

一まくら 一 小まくら相添

一白布袋 一

一こん足袋 二 上下

一白足袋 二 下

一櫛 一

一はさみ 一

一扇子 二

(32)

一大小 一 腰

一脇差 二

一小柄 二 鉄柄銀催様之分 赤銅金催様之分 ほ二本相添

一波黒引はだ 一 大小分

一石筆 一

一印籠 一

一さ目 二 きれ

但、あい

一柄糸 一 花色小之分

一簑 一

一笠 一 すげ

(34)

一ぎやまんかんさし 三 箱入

但、竹ノ筒二本へ入組、松原宗兵衛荷物入、宿エ送ル

一千代口盃 九ツ 内、ニツこんえ、七ツ銀え (紺糸) (銀糸)

品川分共二箱十三、松原宗兵衛荷物入組、宿エ送ル

一ぎやまん盃 三 内、ニツこん地、一ツあさき菊形

但、竹ノ筒江入組、武助と一同ニして有之

一焼物三ツ組盃 壺

一肴鉢之春三ツ組 一 紙包ニして

松原宗兵衛荷物入組送ル

一同扇之地紙春 五 同

一大こんつき 四ツ

松原宗兵衛荷物入組送ル

一ようし箱入 五

一江戸え 三十枚 (紺)

一同たん尺 式十八枚 太之分

一同名所え 式十八枚 小之分 (紺)

(35)

一のし包紙 一枚 (紺)

一女え懸物 二 (紺)

一油え 三枚 (紺)

一めん 二

一手ごり 一 柳ごり (袴地)

一女中えり地 二 絹

一 庖丁 一

但、(薄刃)うすば

一 道中記横本 一

一 江戸絵図 一

一 万国絵図 一

一 実語経 一

(36)

一 のこ 一

一 きり 一

一 字引 一

一 めかじ 七百六拾目懸め

但、六わ

一 灯燈 一

一 葉ろう 一

但、此三品、松原宗兵衛舟荷江入組送ル

一 団扇 六本

但、同人送り荷入組送ル

一つほ 一 ふた共二

但、同人舟荷相頼送ル

一 下緒 大小分一

小之分

一つば 一 ふた共二

但、松原惣兵衛舟荷江入組差送ル

(37)

江戸麻布御屋敷より道割

品川より

川崎貳里半

川崎より

金川迄貳里半

金川より

程ヶ谷迄壹里九丁

程ヶ谷より

戸塚迄貳里九丁

(38)

相州より道割

上宮田より

藤沢迄八里

藤沢より

小田原迄八里八丁

小田原より

原迄拾里拾五丁

原より

江尻迄拾壹里拾五丁

江尻より

金谷迄拾壹里拾壹丁

金谷より

浜松迄拾壹里八丁

浜松より

赤坂迄拾貳里貳丁

(39)

赤坂より

宮迄拾壹里半拾五丁

宮より

四日市迄拾里八丁

四日市より

水口迄拾里半三丁

水口より

伏見迄拾三里半

ノ

上宮田より
出立日記

八月七日

上宮田出立

鎌倉

江ノ島

弁天石穴
片瀬村

藤沢

(40)

相州上宮田より出立日記

嘉永七

一八月七日今焼七ツ時上宮田出立二而

(マ、鎌倉) (長谷)

由井ヶ浜を通り鎌倉はせ申所大仏・権五郎之墓

へ参詣、夫より七リヶ浜へ通り江の島へ

参詣、九ツ時弁天石穴見物、片瀬

村中食、藤沢駅牧田や源右衛門方

八ツ半時着、止宿

一同八日今焼六ツ時藤沢出立二而

(馬、以下同)

馬入川船渡し船賃不入、平塚、大磯、夫より酒匂川百九十

文二而渡り、小田原宿エハツ時着

桔京や伊左衛門方二止宿

一同九日小田原今焼七ツ時出立二而

(41)

箱根へ取付、権現へ参詣、夫より曾我

十郎・五郎の太刀開帳、夫より関所を越し、

箱根宿木陳柏や庄右衛門方昼飯、

水海見物、順々下り見島明神

(沼津)

社へ参詣、夫より沼間津着、そば酒

杯吞、原江暮六ツ時宿櫓や

喜兵衛方止宿

一同十日今焼七ツ時原出立二而

より大雨

吉原宿を通り同所市場名物

八月十日
吉原
名物白酒

富士川

岩瀨
名物栗の粉餅

薄原

白酒吞、夫より富士川渡り、船渡り
貸錢不入、岩ふち二而名物栗
の粉餅くい、神原駅なすや

(42)

伝兵衛方二而昼飯、夫より出立、

大水二而由井川渡り留二付、わき本陳

平野四郎兵衛八ツ時着、止宿

一同十一日未夕由井川・沖津川留二付、

平野四郎兵衛方滞留二而、本町

より八丁山之手二清湖山林光寺

見物ニ参り、名物之山しよもらい

罷帰り、同所止宿

一同十二日今朝正六ツ時由井出立二而さつ

(マ、堤)

田柿二而富士山見物、夫より沖津川自身

二渡り、清見寺参り、三尾之松原景色

(興津)

見物、沖津着江尻着、夫よりうハが地見物、壱り山と申所より府

中浅間江之近道、くす之木村・せ長村・

あけつち村・くつのや村・横打村、府中

城大手江通り、馬場之町・宮ヶ崎町・浅間

参詣、なこや明神・須佐之尾尊・左浅間この

花さくや姫のみこと・左大穴持みこと・右天照大神・

(43)

きづき大神・下八幡宮・古三社三の御前様・まりし天・

下八幡宮、夫より壱丁計り上二奥之院

(元信)

拝殿、古法眼主信の絵、龍・天人皆

(格天并)

こつ天上なり、其外薬師殿右二有、

(舞)

乗子殿・かい郎式十間三面・にを之

(隨神)

門・すい神門有之、前二相見候なこや

神二雨犬こま犬・下二木馬有之、

皆左り甚五郎作也、夫より本町を

(ママ、安倍川)

通り平部川老人六拾四文二而三人二

(渡カ)

増し相渡り、まり子着、宇の津山を

(ママ)

越、岡部二而川之や儀右衛門方七ツ半着、

止宿

八月十三日

一同十三日今曉正八ツ半時岡部出立

二而藤枝夜之内二通り、島田 江朝

五ツ半時着、夫より大井川渡り金

(44)

谷江四ツ時着、昼飯食し、佐屋中山

(佐夜)

江懸り、あの餅食し、日坂 江九ツ半時

(掛川)

着、夫より懸川八ツ過着二而くす布

(袋井)

買得、夫より貸井宿池田や儀兵衛

方江七ツ半時着、止宿

八月十四日

一同十四日今曉正七ツ時袋井出立二而

見付

見付宿へ正六ツ着、夫より小天龍・大

(天脱カ)

龍川 江渡り舟渡し也、舟貸不入、

浜松
舞阪

浜松宿四ツ半時着、夫より舞坂

新居
白須賀

八月十五日

一同十五日今曉七ツ時白須賀出立二而

二川 江着、夫よりひうち埜二而岩屋の

(御通)

観音参詣、吉田 江着、夫よりごい江白四ツ

(御通)

半時着、昼飯食し、夫より赤坂 江着、

夫より宝蔵寺拝礼、夫より藤川二着、

夫より岡崎 江七ツ半時着、宿銭や

兵助方止宿

八月十六日

池鯉鮒

一同十六日岡崎今曉七ツ時出立二而ちり

(鳴海)

ふ・なるみ二而しぼり見物、夫より

宮、宿上総さや方江委細長門や

世話二而上つさや清兵衛方二而

止宿、八ツ時着故所々見物二出候

付り

夜中入緒・松齒・松鉄同道

(45)

参詣、其外町方見物、

遊女町 江も見物として罷越之事

一同十七日白五ツ時宮駅より乗舟 而順風克

桑名

杖衝埵

石薬師

八月十八日

龜山

石部

八月十九日

京都

八月二十日

桑名駅江白九ツ時着、そば忍め同刻半

出立、追分杖衝をこへ、夜二入石薬

師へ五ツ時着、本陳岡野や吉右衛門

方二而止宿

一同十八日今暁七ツ時石薬師出立二而

龜山城下、夫より関・坂ノ下・古法眼

筆捨山見物、鈴々鹿埵・土山・水口

(8)

七ツ半時着、夫より石部江夜五ツ半

着、かしくや文右衛門方止宿

一同十九日今暁七ツ半時石部出立二而

草津・勢田・膳々城下・大津・

栗田口・三条通り・知恩院・祇園社参

詣、祇園町五条通り井筒や吉郎兵衛江

宿ス

付り、島原遊女町江も入緒・松

齒同道二而見物之事

一同廿日京都滞留二而見物二罷出候而五条より清水おと

はの瀬・八坂の堂・祇園・智恩院・

三条通り・墨谷・南禅寺・吉田

真如堂参詣、門前茶や二而昼飯、夫より

御所へ参り、寺町筋・たこ薬師・誓

(8)

かん寺・手長島二而手長足長之置物

伏見

大坂

乗船

八月二十日

八月二十日
乗船

明石城下沖

八月二十四日
金毘羅
多度津

八月二十五日

見物、夫より扇子買得、五条橋江帰り

七ツ時宿江着、夕飯食し、夜五ツ時舟無

之二付伏見江行、夜四ツ時着、川舟江乘

組、夜舟二而暁七ツ半時大坂

着、夫より歩行二而天満天神へ参詣、

夫より常安橋帶屋幸助方江朝五ツ

着、風呂朝飯相済、夫より所々見物、

道とん堀芝居見物、夜中新町

見物二出、夜九ツ時帰り候上、直様

舟江乗組

一同廿二日又々見物二出、九ツ時帰り舟ニテハ

川下あじ川橋留島へ懸り、

其夜新堀遊女町見物、九ツ時帰り

一同廿三日今暁七ツ時出舟、順風二而

明石城下沖江夕方懸り居、其夜

(8)

五ツ時又々出帆

(讃州多度津)

一同廿四日白八ツ時参州多と津浦

江着、夫より歩行二而金毘羅社

参詣、夜二入五ツ舟宿、茶屋

貞七と申す方帰り風呂江入、又々

舟江帰り止宿

一同廿五日今暁七ツ時多と津浦

出帆ニ而日合宜、順風ニ而

八月十六日

一同廿六日順風ニ而三田尻へ九ツ時

三田尻着

着船、舟中ニ而昼飯、七ツ過より出立

宮市

宮市天幡宮ニ田尻弥三郎稻

荷へ参詣、鯖持ニ而より夜ニ入山口

山口へ堅町へ、いぜきや喜右衛門方ニ而

夜五ツ時着止宿

八月十七日

一同廿七日今晚六ツ時山口出立ニ而佐々

佐々並
明木

並昼飯九ツ時、明木江八ツ半時着、

萩
金谷天満宮

萩金谷へ夕方着、天幡宮へ参詣、

暮方御屋敷へ着

八月十八日

一同廿八日萩滞留ニ而玉江五鬼

玉江五鬼権現

権現江石返し、御礼として参詣、夫より

田町

田町ニ而少々買物、御屋敷江帰り

止宿

八月十九日

一同廿九日滞留ニ而松本妙安寺江

妙安寺

先祖之拜ニ参り、天野瀬兵衛様

見廻として参り、又々買物亦相

調、心安キ先方江見廻ニ参り、

夕方御屋敷江帰り、明方御暇相

(31)

洛候ニ付帰りの支度相調置

少し休足

八月晦日

屋敷出立

一同晦日今暁、御屋敷出立

之節、御部屋様御奥様方帰り

之出立迄御見物被遊候

小遣帳
(往路)

(32)

相州江御出張ニ付宿出立

萩より江戸相州上宮田迄道中
并日々小遣控

嘉永七寅正月六日より

同 一拾文

鞋一足代

同 一三拾六文

弁当菜代

同 一拾九文

鞋二足代

同 一壱文

霧渡り銭

同 一貳百拾六文

めり安代

同 一八拾文

張燈代

同 一三文

印判代

同 一四百三拾貳文

たはこ代

同 一六拾三文

刀当油代

同 一四拾文

守り緒代

(33)

△

同	一式拾七文	石筆筆代
同	一百三拾五文	茶口代
ノ丁銭毫貫六拾九文		
同	同八日萩出立江戸迄道中小遣	
同	一拾四文	山口
同	一貳拾三文	同 鞋一足代
同八日	一五拾九文	山口より ういろう代
同	一拾八文	山口 鞋五代
同	一七拾貳文	山口 茶口代
同九日	一五文	富海 きせる代
同十日	一拾六文	同 茶口代
同十二日	一八拾七文	此より九六之事 大島郡
同十四日	一五拾貳文	同 保名酒代
同	一七文	風呂代
同十五日	一式拾文	兵庫着
同	一拾貳文	同 菓子代
同	一百七文	同 草り代
同	酒肴出銅	
ノ	四百九拾貳文	

同十六日	一三拾四文	大坂着二而
同	一六拾文	芝居木と貸
同	一拾六文	同 茶口
同十七日	一百文	同 天王寺堂見物として出ス
同十八日	一百五拾文	大坂より伏見迄小遣
同十九日	一百拾文	伏見より石部迄同
同廿日	一百文	石部より関迄同
同廿一日	一八拾文	関より桑名迄同
同廿二日	桑名より宮迄同	一日滞留、宮よりなごや城下見物之節入用
同廿三日	一百文	宮より赤坂迄同
同廿四日	一百五拾文	赤坂より浜松迄同
同廿五日	一百七拾文	浜松より日坂迄同
同廿六日	一百三拾貳文	日坂より府中迄同
同廿七日	一百五拾文	府中より神原迄同
同廿八日	一百二拾文	神原より見島迄同
同廿九日	一百七拾文	見島より小田原迄同
同三十日	一式百文	小田原より程ヶ谷迄同
同	一式百文	程ヶ谷より江戸迄同
同	一百貳拾文	同断

三月朔日より

一三貫九百八拾貳文 上下一具

但、金子貳歩と七百五拾文玉や惠七拾五

同

一五拾文

茶口

同三百

一四拾八文

漬物

同

一三拾貳文

菜

(39)

同

一四文

同

一拾貳文

酒

同

一拾貳文

茶口

同

一九文

散錢

同

一五拾七文

飯

同二百

一八文

ひし餅

同

一拾六文

茶口

同

一八文

漬物

同

一貳拾文

同

同四百

一拾四文

茶口

同

一四文

菜

同

一壹貫九百九拾貳文 但、小袴代

但、金子壹歩と二百七十六文伊勢や

弁之助へ払

同五百

一四拾文

茶口

(40)

同六日

一三拾貳文

漬物

同

一拾五文

菜代

同

一拾六文

酒

同

一四文

肴

同

一三拾文

そば

同

一拾六文

茶口

同

一拾貳文

同

一三拾貳文

そば

同

一八文

漬物

同

一九文

参錢

同

一拾六文

草り

同

同七日

一四拾文

茶口

同

一四拾文

同

同

一六拾四文

同

同八日

一貳拾文

漬物

同

同九日

一拾六文

同

一拾文

同

同十二日

一四拾文

絹頭巾

同

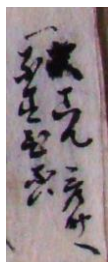
一六拾四文

そば

同	一四拾文	昼飯
同	一三拾貳文	そば
同	一五文	参銭
同廿二日	一百貳拾九文	羽織ひも一
同	一百拾九文	かい中袋
同	一百貳拾九文	えり地壺 (拾)
同	一八拾六文	同一
同	一百貳拾四文	三組千代口
同	一六拾八文	懸絵一 (油絵)
同	一百文	油之三
同	一三拾四文	大こんつき二
同	一六拾四文	本緒ひん付
同	一八文	茶口
同	一三拾貳文	そば
同	一三拾貳文	茶口
同	一貳拾文	同
同	一拾六文	酒
同	一四文	菜
同	一百文	大こんつき三ッ

八拾壺貫貳百三拾九文	但、貳朱四百壺文
同廿四日	一四拾文
同	酒肴
同	のこ一
同	きり一
同	一三拾貳文
同	皮はり一
同	一五六六拾文
同	めかじ懸目貳百六拾め
同	一貳百拾六文
同	同懸め百目
同	一七百貳拾文
同	同懸目四百め
(和世) 但、貳朱八百九文わしニして金書及ニ懸目 五拾め懸ニして買得之事	
同	一四拾八文
同	そば
同	一貳拾四文
同廿五日	酒
同	一五百文
同廿七日	江戸より上宮田迄小遣
同	一百文
同	茶口
同	手ぬ (貳) こい一
同	一百拾六文
同	茶口
同	一四拾文
同	同
同	一拾六文
同	同
同	一拾貳文
同	井酒
同	一三拾貳文

同 一拾九文	同肴出銅
同九日 一貳拾文	茶口
同 一四拾貳文	菜出銅
同 一拾三文	肴代
同 一八文	したし
同十一日 一四拾文	あんころ代
同十三日 一八文	切菜代
同十五日 一四拾六文	惣出銅
同 一六拾文	米五合代
同十六日 一四文	砂糖代出銅
同十七日 一四文	菜代午房
同十九日 一八文	天豆代菜
同廿日 一拾貳文	たくあん一
同 一貳拾七文	八助私
同廿一日 一拾貳文	からすし一
同 一八文	肴あご一
同 一八文	たくあん一
同廿二日 一八文	大こん彦助へ ふすひふい



同 一三文	す代九十へ
同 一十六文	油あけ代
同 一六文	小あし三
同廿三日 一四拾文	茶口餅代
同 一拾文	たくあん代
同廿四日 一六文	なすニツ
廿五日 一拾文	いわし五
同廿六日 一貳拾文	たこ代
同 一四文	しよゆ代
○ 同廿九日 一貳拾文	御殿二而分
同 一四文	彦兵衛へ私
同 一拾貳文	かし 長井二而
同 一四拾八文	あめ 同断
同 一六拾文	たこ酒出銅
同廿四日 一貳拾文	ハツ割老ツ分
同十七日 一貳拾文	茶口
同 一八文	茶口

七月朔日	菜出銅出ス	一拾四文
同	酒出銅 同	一貳拾六文
同	ベ老貫四拾六文	一貳拾六文
.....		
七月分	朔日	一七文
同	（加子）胡瓜 なす・きうり 代として出ス	一七文
同	一丁五拾貳文	あんころ代
同二日	一四文	麦代出銅
同二日	一拾六文	もく草一
同五日	一四拾五文	茶口十五
同五日	一七文	菜代
三月廿一日	一老貫貳百文	（和巾） 九六、老貫貳百五十文わし十貳文にして 但、江戸二面綱引地仕立代共、前へ 付落二付、爰記ス
同七日	一七拾八文	中綿
同	一四拾八文	あさ
同	一百三拾五文	木綿三尺

同	一七文	たくわん
同	一貳拾四文	餅代
同	一三拾貳文	御殿三而之分 同 彦助江抔
同	一五拾老文	隣り江出銅
同九日	一拾八文	木綿五寸代
同	一貳拾文	手紙二帖
同	一四文	うはし二ツ
同	一七文	なす二ツ割 卯一江
同十日	一四拾八文	茶口
同	一四拾八文	そば代
同	一百三拾文	晴雨人形代
同	一拾六文	もくさ
同十三日	一四文	あじ正太へ



同	一八文	菜出銅 割方前小遣へ
同	一六文	なす割方 卯一へ
同	一六拾文	しんこ二十
同十四日	盆三付	
一三文	寺へ参銭	
同十五日		
一九拾六文	内 木ちなし五十、花五計	
同	一三百六拾四文	
	但、金百十四枚	
同	一拾文	
	但、松煙	
	ベ四百七十文	
同	一六拾文	茶口
同	赤口	
同十八文	菜代	
同十八日	菓子代	
同	一拾文	しよちう代
同	亀之助	
一貳拾文	水か割方	
同	一拾壹文	なすび代 卯一方へ

同	一貳拾四文	菓子代
同十八日	一四文	なす、卯一江
同	一三拾貳文	御殿三而 大餅 彦平へ
同	一九文	油上代
同十九日	一拾貳文	なす代
同十九日	一拾六文	割方彦助へ、菜 出銅出又
同廿日	一六拾文	見崎三而 さば一
同	一拾壹文	醬油代
同	一八文	原三而 なし代
同	一貳文	茶口代
同	一貳拾四文	見崎の割方 肴代
同廿一日	一貳拾四文	井酒代
同廿二日	一貳拾三文	肴油上代
同	一四文	いとし割方 五ッ
同	一拾四文	彦助へ、草り代
同廿三日	一三拾三文	水賀割方
同	一四拾文	餅代

同廿二日	一老貫六百拾貳文	柄袋代として	くしや
但	金巻炭、丁老貫五百四十八文かへ	小国氏江渡ス	
同廿五日	一三百五拾文	柄巻代として	くしや
		糸やへ渡ス	
同廿二日	一拾貳文	いわしからすじ	
同廿六日	一四拾八文	酒貳合代、卯一へ	
同	一拾六文	井酒代	
同	一拾貳文	きぬ糸代	
同	一拾貳文	なし	
同	一四文	なすび	
		卯一へ	
同廿七日	一六文	同	
同	一九文	菜割方、出銅	
同	一貳拾四文	肴油上	
同廿八日	一貳拾壹文	すし肴代、出銅	
閏七月朔日	一拾五文	菜す代	
		九十へ	
	ベ三貫八百六拾七文		
	合四貫六拾七文		

閏七月分	同二日	一拾五文	あめ肴代
	同三日	一五文	なし二
	同四日	一八文	井酒
	同	一六文	なす
	同	一六文	かぼちや
	同	一拾貳文	菜出銅
	同八日	一六文	好右衛門へ遣ス
	同	一拾文	あじ二ツ
	同	一四文	同 五ツ
	同	一九拾文	醬油酢代
			彦助へ遣ス
	同十日	一五文	扇子形春代
			九枚之辻相渡ス、正太殿へ
	同	一拾文	やきなすび
			出銅、卯一へ
	同	一拾文	いわし五
			卯一へ
	同	一四拾八文	五令散代
	同廿一日	一七文	あじ代、五
	同	一三文	しよゆう
			城子へ
	同	一五拾壹文	あんころ

同十四日	一壺文	なすび代 卯一へ
同七日	一拾壺文	同二十壺代 卯一催合五分
同十四日	一拾四文	いも代
同	一壺文	寺へ参銭
同十八日	一丁百五十六文	さくらさ 木綿壺尺六寸 白同式尺五寸
同	一四拾八文	そば代
同	一三拾八文	水菓子代
(88)	同	
同十七日	一百七拾弐文	た葉こ代
一五文	卯一へ水賀 四ツ、代渡ス	
同	一八文	筭代彦平払
同	一壺文	油出銅五ツ割
十九日	一四拾九文	あんころ 金子やへ
同	一拾五文	油上あじ 同
同廿日	一四拾九文	さや袋代
同	一三拾弐文	筆代
同	一四文	いも代

同	一弐拾弐文	肴代割方 正太殿江
同廿一日	一弐拾四文	江戸絵二ツ代
同	一弐拾八文	あんころ 金子やへ
同	一弐文	松原氏へ
一九文		いも
(89)	同廿一日	
一弐貫三百三十文	火薬代	
但、金巻歩弐朱豊田庄次郎へ直二 い固や二而相渡ス 唐小屋		
同廿一日	一七拾六文	あんころ 金子やへ
同廿三日	一弐拾八文	同
同廿五日	一四拾文	同
同	一五拾九文	中綿
同	一拾七文	真田打緒
同	一百七拾六文	あさぎ木綿
同	一四拾文	木綿糸
同	一百文	江戸名所絵
同	一八百十弐文	美濃代
但、金弐朱		
同廿六日	一九文	菜出銅

同 ⁽⁹⁰⁾	一拾文	肴代 九十江
同	一拾貳文	のり代 彦助江
同	一七文	午莠代 卯一江
同	一三文 但、三人割方	醬油代 彦助江
同	一三文 但、四人割方	酢油、彦助江
同	一四拾文 同廿七日	油あけ
同	一四拾文	あんころ
同	一拾壹文	いも
同	一百七拾貳文	木綿絵付
同	一百拾四文	同うら
同	一貳拾七文 何歩何朱	玉菓代
同	一廿六文	的抜代
同 ⁽⁹¹⁾	一六拾文 同廿九日	あんころ
同	一拾六文	井酒
同	一拾六文	井酒
同	丁四貫九百九拾四文	

同 ⁽⁹²⁾	八月分	
同二日	一三拾貳文	あんころ
同	一三拾五文	惣割 出銅、隣り 固やへ遣ス
同	一九文	肴代
同	一貳文	醬油代
同	一拾貳文	のり
同	一四拾四文 五百	しろこ
同	一九拾貳文	書賀 (書画カ)
同	一三拾貳文	惣割
同	一四拾八文 卯一へ	割前
同	一五文	わたし (渡し)
同 ⁽⁹³⁾	一金子壹両貳朱	
同四日	但、小国剛蔵江上下地代として 右之通荒当渡し置候事 丁錢ニして七貫貳拾文	
同	七貫三百二拾壹文	
惣合	惣合	
同	四拾壹貫八拾文 八〇ニシテ	
同	六百目〇壹匁	

⑨
鉢帳延米覚

二月十七日より晦日迄
一三升
三月朔日より十五日迄
一五升壹合
同十六日より廿三日迄
一貳升七合
右江戸滞留中之分
四月四日より十二日迄
一壹升貳合
同十三日より晦日迄
一貳升九合
五月朔日より十五日迄
一壹升五合
同十六日より廿九日迄
一貳升九合
六月朔日より十五日迄
一貳升貳合
同十六日より晦日迄
一三升壹合

山科文圭

三月廿八九日
一せん薬 貳ふく
六月廿日
一せん薬 貳ふく
同廿一日
一同 三ふく

小遣帳
（復路）

同廿一日
一同 三ふく
同廿三日
一同 三ふく

右薬礼として上宮田ニ而壹朱
と百文相添遣ス

⑩
一拾六文

但、八月六日迄分鉢帳延米代として受取
貳合
使彦助

⑪
相州より救迄
道中小遣覚

八月六日
一丁錢八文

但、閏七月鉢帳壹合代払、使九十へ渡ス
同六日
一四百九拾貳文

但、壹朱壹ツ当百一ツ相添山科文圭江薬礼として遣ス
同七日
一八文 いも

同 一三文 大仏江の島へ参錢

同 一拾六文 江の島石穴、其外手引代

同 一拾貳文 同所 石穴とほし代

同 一貳拾四文 同所 細工物

同 一拾六文 わらす一

同
一九文
大仏餅

一、貳拾四文 中食料理代

99

(ママ、鎌倉)

一貳拾四文 鎗倉絵図

同
一百八拾六文
藤沢二而旅籠代

三百一拾貳文

同八目

一四文
いも

一三拾貳文 そば

同 酒匂川

一
式拾四文
菓

一百七拾六文 宿錢

一貳拾四文 金印御守二

四百四十六文

九 (100)

一六拾三文　さんしよを魚、九ツ

同
(南芥集)

一貳拾文
なんまんきび

同 箱根

同權現二而

一拾弍文
曾我十郎・五郎之太刀開帳

同
一八文
ぬます二而
酒代

一三拾弐文 そば代

一、

一百七拾六文 宿賃

箱根権現

見昌明社在

同十目

一拾文
しよちう代

一七文 いも

一拾六文
わらず

一 拾式文
名物白西
吉京の市場ニ而

一拵三丈
岩ふち二而

栗のこ餅

蒲原

一六拾文
なすや伝兵衛方、昼飯

一 同
合文
予曰乃兵衛二而

一四拾文
平野四郎兵衛二面

一拾六文
一酒肴出銅

一百九拾貳文 宿錢

三百六拾五文

102

十一日 由井滯留

一百九拾貳文 宿賃

同 一七拾壹文	同 宿札	同 一九拾六文	同 昼旅籠代	〆式百六拾三文	同 同十一百	同 一五文	同 一拾五文	同 一式拾文	同 一五文	同 一拾貳文	同 一四拾文	同 一百九拾貳文	同 一四文	同 一百七拾六文	同 一三拾貳文	〆四百九拾九文	同 同十二百	同 一九文	同 一三拾貳文	同 一貳百三拾文
					同 府中淺間江	同 江尻二而	同 江尻と府中之間寄り山二而	同 府中淺間江	同 同所二而	同 餅代	同 飯代	同 安部川渡り貸	同 いも代	同 岡部宿賃			同 島田二	同 餅	同 金谷二而	同 飯
																				大井川渡り錢二人半

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一九拾貳文	同鎗渡し貸	一拾五文	一四文	一拾文	一三拾貳文	一百八拾文	〆五百九拾七文	同九六	一金貳朱式百拾六文	一十六文	一貳拾文	一貳拾四文	一四文	一七拾貳文	一拾貳文	一拾貳文	一拾貳文	一拾貳文	一拾貳文
小夜中山	佐屋中山二而	あめ之餅	日坂二而	こをり餅	掛川三而	餅	そば代	袋井二而	宿賃	はらず	天龍川	餅	浜松二而	そば	舞坂二而	昼飯	渡し舟江遣ス	舟中二而	かし
但、金九匁五分	掛川二而くす布	織袴地代、わし八百十二文	ニして右之通り、二具入江氏催相	ニ買得かへし取二而上之分取り	当り之事														

一八文 荒井二而
 一拾貳文 同 ころ薬
 一貳拾八文 宿二而 荒井渡り銭として出ス
 一百七拾六文 宿賃
 〆三百七拾貳文
 同十五目 御油
 一三拾文 昼飯代
 同 一拾文 宝蔵寺二而
 同 一四拾八文 赤坂より馬賃
 藤川迄
 同 一拾六文 わらず
 同 一四文 菜代
 一百八拾文 岡崎宿賃
 〆貳百八拾八文
 同十八日 池鯉鮒
 一拾五文 ちりふ二而
 餅代
 一四拾文 同 なるみ二而
 昼飯
 同 一拾三文 そくり
 宮宿
 一貳百貳拾四文 宿賃
 同 一五文 打ひも

同 一貳貫五百四拾四文 買物
 但、金巻歩と貳朱と丁銭百九拾六文
 わし八百十六文
 同 宮宿二而
 一同五拾貳文 宿礼出銅
 〆貳貫八百九拾四文
 同十七日 桑名
 一貳拾八文 宮より桑奈渡り之節 舟中二而
 菓子代
 同 一貳拾四文 桑名二而
 そば代
 同 一八文 白酒代
 同 一拾四文 四日市二而
 すし代
 同 一三文 杖突二而
 まんしう代
 同 一貳拾文 餅代
 同 一百三拾四文 宮より桑名江渡り賃
 平助方へ
 同 一百九拾貳文 石薬師
 宿賃
 〆四百貳拾三文
 同十八日 龜山二而
 一六拾四文 そば代
 同 一拾文 坂ノ下二而
 餅代

同 一四拾八文 鈴鹿^(陸)三而
 一三拾六文 土山手前二而
 一四拾六文 菓^二子代
 同 一四文 水口宿二而
 同 一百九拾貳文 そは酒代
 同 宿貸 石部宿二而
 同 一三拾六文 わらす三
 同 一百九拾貳文 宿貸 石部宿二而
 同 一四文 菓^二子代
 同 一三拾六文 わらす三

ベ 四百三拾六文

同十九日 草津三而
 一貳拾文 うはか餅 入
 同 一三拾六文 勢田三而
 同 飯代 松
 同 一拾貳文 はらす一 同
 同 一拾三文 大津二而
 同 一八文 はらす 入
 同 一百六拾壹文 大津より 入
 同 一拾六文 からすり馬貸
 同 一貳文 馬方へ茶代二遣ス
 同 一貳文 京都二条通り
 同 一壹文 茶代
 同 一壹文 祇園詣江参銭 入
 同 一貳百八文 五条宿貸
 同 一貳百八文 五条宿貸
 同 一貳百八文 五条宿貸

ベ 四百七拾七文

同廿日 京都蒲留
 一拾六文 ぞをり
 同 一九拾六文 昼飯
 同 一九文 かき代
 同 一貳拾文 おない物
 同 九六 小扇子七
 同 一百文 松公へ相済
 同 一三百五拾七文 同大貳・中五
 同 一百拾六文 宿三而
 同 一貳百九拾四文 京都宿貸入用
 但、貳歩之内九六貳百文返り
 わし八百十六文ニして
 一貳百六拾五拾八文

ベ 三貳百六拾五拾八文

同廿一日 大坂三而
 一拾六文 そおり
 同 一三拾貳文 そば
 同 一貳拾文 餅
 同 一貳文 入公へ新町三而
 同 一貳拾文 あめ代
 同 一壹拾文 扇子打
 同 一六文 松公へ相済
 同 一三拾四文 陽弓
 同 一貳百拾九文

ベ 百貳拾九文

同 一九文 ういろう

ベ壹貫七百拾六文

同廿七日 山口市之塚二而

同 一五文 名物餅

從 笹波二而

同 一六拾文 昼

同 一五文 明木二而 せん餅

同 一拾壹文 かき代

同 一六拾六文 明木二而 酒肴代

同 一拾貳文 草り

同 一壹文 金谷天神へ

同 一百貳拾八文 萩二而 そは酒代

ベ貳百八拾八文

同 一百貳拾五文 萩二而 城隼へ渡

同 但、本膳五代

同 一四百五拾文 渡辺や払

同 但、銀五匁 きせる代

同 一五拾四文 柄袋緒共二

同 一八拾四文 徳油代

同 一貳百七拾文 こん足袋代

同 一貳拾四文 打緒代

同 一拾八文 菜代

ベ九百五拾五文

廿九日 一貳百七拾文 むねあて

同 一百八拾文 砂糖代

同 一六拾三文 べに代

同 一拾八文 あをこ代

同 一拾貳文 かき代

同 一拾文 茅す代

同 一五拾七文 荷物送り貸相催

同 一貳拾四文 妙安寺へ 祝義

同 一九文 同 花

ベ六百四拾三文

合 拾九貫四百六拾壹文

八〇ニシテ

貳百三拾三匁七分六り貳毛五

惣合 八百三拾四匁七分六り貳毛五

(道)

道中買物覺

- 一 小田原ニ而金印之御守受
 - 一 小田原之先湯本ニ而畑ニ而細工物
 - 一 箱根ニ而さんしょう魚
 - 一 府中ニ而竹細工紙子
 - 一 島田ノ大井川ニ而五鬼権現江
返し石ひろい之事
 - 一 掛川ニ而葛布袴上下合鯨さし足袋
 - 一 浜松ニ而さし足袋
 - 一 吉田より御油之間ニ而ひふたん買得之事
 - 一 池鯉鮒ニ而蛇除之御守
- (田)
- 一 池鯉鮒鳴海之間ニ而ぜんご手
拭懸其外細工物色々、同所
有松ニ而鳴海しぼり
 - 一 宮桑名ニ而金物あり
 - 一 水口ニ而しび細工あり
 - 一 大津伏見之間算用盤あり
 - 一 京都ニ而金物詮儀諸細工物
織物色々扇子下置之事^(直九)
 - 一 伏見扇子団扇あり
 - 一 大坂ニ而木具塗物帶地反物

帷子類いろく其外筋砂^(直九)
糖下置之事

終

(裏表紙)

嘉永七寅正月六日
萩出立
俣賀又助用
同年八月廿七日
萩迄帰国

致事日記

(終)